

学校評価（R5前期）の考察

肯定率80%を超える評価項目（B評価以上）は、教職員が30項目中30項目（100%、うち29項目はA評価）、児童が15項目中14項目（93%、うち11項目はA評価）、保護者が23項目中22項目（96%、うち18項目はA評価）と全体的に良好である。しかし、項目別に見ると、評価が極端に低いものや前回評価と比較して大きく評価を下げているものもあり、早急な対応が必要である。

【項目ごとの分析と対応策】

○ 「学校に行くことが楽しい」 評価項目【保護者①、児童②、教職員⑱】

保護者肯定率は88%、児童肯定率93%（前回比+5%）、教職員肯定率100%と高水準を維持しているものの、保護者肯定率は前回比-12%と大きく低下している。学校での児童、明るく元気に学校生活を送っているため、学校だよりやホームページ等をさらに充実させ、学校生活の様子をしっかりと伝えとともに、参観日や行事等を通じて、生き生きと活動する児童の姿を見ていただく機会を増やしていきたい。

○ 「基礎学力の定着・分かる授業」 評価項目【保護者⑰、児童④、教職員⑤⑥⑦】

保護者肯定率は100%（前回比+3%）と高い評価をいただいているが、児童肯定率が前回比-10%（B評価）と大きく低下している。教職員肯定率は3項目とも100%であり、教材研究や授業改善に十分取り組むことができていると自負しているが、児童の肯定率が低下していることに危機感を持って、より良い授業の構築に努めていく必要がある。今後は一人一台端末の効果的な活用を通して、個別最適な学びと対話的な学びの一体的な推進を図っていく。

○ 「読書習慣」 評価項目【保護者③、児童⑫】

保護者肯定率は46%（前回比+1%、E評価）と極めて低く、家庭での読書習慣が十分身に付いていない児童が多いことが伺える。児童肯定率も前回比-16%（C評価）と大きく低下していることから、これまで取り組んできた「学級における読書の奨励」や「朝読書」等だけでは十分ではないことが明らかとなった。今後は、学校支援ボランティアによる「読み聞かせ」や校内での啓発活動を通して、児童に読書の楽しさを味わわせる取組を一層充実させる必要がある。また、家庭での読書習慣の定着に向けて、ゲームや動画視聴に関する指導を一層充実させ、家庭と連携しながら読書時間と質の向上に努めたい。

○ 「いじめ・不登校対応」 評価項目【保護者⑭、児童⑨⑩、教職員⑧⑮】

現在本校では、いじめ・不登校ともに認知していない。教職員の生徒指導・児童理解に関する肯定率は100%であり、児童の教職員に対する信頼度もA評価（98%）と高い評価を得ている。しかし、保護者肯定率は93%と高い水準を維持しているものの、前回比-7%と評価を下げている。これは、保護者の記述回答にもあるように、児童の物が隠されるなどの生徒指導事案が起きているためだと考えられる。その都度適切に対応し、再発防止に努めているが、学校としての対応について分かりやすく周知することにも力を注ぐとともに、全職員の共通理解の下、一人一人の児童に寄り添ったよりよい指導を目指したい。

○ 「学習ルール・集団生活のきまりの徹底」 評価項目【教職員④⑩】

教職員肯定率は、「学習ルール」・「集団生活のきまり」とともにA評価であるが、100点換算値で見ると、2項目とも77.3ポイント（C評価）と十分な評価とは言えない状況である。また「学習のルール」については、肯定率が前回比-9%と低下していることも気にかかる。教育のプロとして、学習のルールを徹底し、分かりやすい授業を行うことは必要不可欠であるため、校内研修を通じて全校職員の資質能力の向上に努めたい。また、全ての児童が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒指導主事を中心に集団生活のきまりの徹底にも力を入れていく。